

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

4. 広域回遊資源：太平洋北ブロック ヒラメ

(抄録)

蛸 名 政 仁

管理計画策定調査 (対象魚種 ヒラメ：対象海域 津軽海峡、陸奥湾、太平洋)

1. 漁獲統計調査 (飼料：県統計)

平成7年の青森県太平洋北区におけるヒラメの漁獲量は733トンで、昨年より239トン増加した。漁法別では、刺網漁業による漁獲が352トンと最も多く、次いで定置網漁業の272トン、小型機船底曳網漁業の96トン、一本釣り漁業の46トンの順であった。特に、刺網漁業による漁獲は、6月から10月までで全漁獲量の50%以上を占めていた。

海域別の銘柄別漁獲状況(水試調査分)は、海峡西部海域～陸奥湾海域(三厩漁協～大間漁協までの範囲)に比べ、海域東部海域～太平洋海域(風間浦漁協～階上漁協までの範囲 但し、八戸市第2魚市場取り扱い分を除く)で小型ヒラメの漁獲割合が高い傾向にあった。

八戸市第2魚市場取り扱い分のヒラメの漁獲量(水試調査分)は、296トンで太平洋北区全体(733トン)の約38%をしめていた。漁法別の漁獲量は、その他漁業(刺網主体)が187トンで最も多く、全漁獲量の63%を占めていた。以下、小型機船底曳網漁業が96トン(33%)、定置網漁業が12トン(4%)の順であった。また、全漁法で小型ヒラメの漁獲割合、及び銘柄の不明分の割合がかなり高い傾向にあった。

2. 資源生物調査

資源診断に用いるための生物特性値を求めるため、年齢解析技術の確立と、資源診断に用いる生物測定データの蓄積を図った。

3. 漁船用船調査

今年度は、生存率の観察時間を10日間とし、泊地区において刺網操業船を用船し、再放流魚の生存率調査を実施した。刺網操業船に2～3名の調査員が乗船し、前日の午前4時～6時に投網され約24時間経過した刺網をドラム式揚網機を用いて揚網し、船上に取り込まれた刺網(目合3寸5分、1～2反分)から生きている小型魚(この時点で網に複雑に絡み死んでいる個体、虫食いにより死んでいる個体は除外した。)を取り外し、船の活魚水槽に収容した。帰港後、小型魚を漁協のアワビ生産設備内の飼育水槽等に移し替え、以後1週間無給餌で飼育した後、生死を鰓呼吸の有無により判定し生存率とした。(判定：ある程度活力のあるものを生、見込みの無いものを死)

調査の結果、生存率は、平均で76%であった。この値は昨年までの生存率調査結果の値96%と比べ低下したものの、ヒラメの資源管理シミュレーションでは、生存率が30%以上で効果があるとの知見があり、かなり高いものと考えられる。

今後、さらに現管理を進めていくには、漁獲制限未満の個体が万一漁獲された場合には速やかに再放流することが望まれる。